

和歌山箕島球友会2年ぶりV

又W一子後援第42回全日本クラブ野球選手権大会最終日(4日)メットライフ(ドーム)

準決勝2試合に続いて決勝があり、和歌山箕島球友会(西近畿)が、大和高田クラブ(東近畿)に3-2で逆転サヨナラ勝ち。2年ぶり4度目の優勝を飾

▽準決勝
千曲硬式野球クラブ(北信越) 000010000000
大和高田クラブ(東近畿) 10020100000X 41

(大)山本 大谷 和歌山箕島球友会(西近畿) 100010000000
I.N.S.クラブ(近畿) 000000000112

(和)寺岡 水田 北見 中川涼、八巻
▽決勝
大和高田クラブ 000000000002
和歌山箕島球友会 000000000032

(大)米倉、山田、大谷、恩庄
(和)和歌山箕島球友会は2年ぶり4度目の優勝

り、社会人野球日本選手権(10月30日開幕、京セラドーム)の出場権を獲得した。タイプレックに突入した10回に2点差を追いつき、水田信一郎捕手(29)が右前に決勝適時打を放った。

水田がサヨナラ打

◇全日本クラブ野球選手権表彰選手◇	
最高殊勲選手	和田 拓也 (和歌山箕島球友会)
敢闘賞	山本 竜也 (大和高田クラブ)
首位打者賞	岩永 幸大 (大和高田クラブ)
打率.500	

全員の気持ちがあつて頂点に返り咲いた。1死満塁から始まるタイプレックに突入



佐々木監督悔し「力不足でした」

「大和高田クラブ」6年ぶり4度目の優勝に、あと一歩届かなかった。2-0の10回、9回無失点の先発・米倉に代わり抑えの山田が救援したが逆転サヨナラ負け。元近鉄監督

の佐々木監督は「勝つてよかった」

手順を踏んでやられたので仕方ない。力不足だったと振り返った。就任2季目の指揮官は「準決勝までは投手中心によく守って打線もつながった。この悔しさを糧にしたい」と来季の雪辱を誓った。

した10回。表に2点を先行されたが、11、13年に阪神育成選手だった先頭・穴田が遊撃へ適時内野安打。「何でもいからつなげよう」と必死に走った」。続く平井の押し出し死球で同点とし水田が右前へサヨナラ打を運んだ。9回2死一、二塁の好機で二直に倒れており「今度ばかりは絶対打ってやろう」と思った」と胸を張った。

おり「全員で企業チームを倒して、球友会の歴史に新たなページを刻みたい」と力を込めた。

東洋大姫路の正捕手として06年夏の甲子園大会で8強入りし、今大会は左腕・和田と右腕・寺岡を好リードするなど攻守で存在感を示し水田は「今までの優勝とはひと味違う」と

箕島球友会V 2年ぶり



【和歌山箕島球友会一大和高田ク】力投する和歌山箕島球友会の先発・和田一長谷川直克撮影

安	002000000000000	計	3232
打	000000000000000		
ク	45544333333003		
永	里山井井本上谷村庄山		
田	44444043353100		
高	岩今内広金杉村大下恩福		
和	④③③⑦⑥⑤②R2⑧		

和	⑨⑧⑧③D R ⑤⑦②⑥④⑧	計	3163
安	0100001111000		
打	0100002021000		
ク	44444043353100		
永	里山井井本上谷村庄山		
田	44444043353100		
高	岩今内広金杉村大下恩福		
和	⑨⑧⑧③D R ⑤⑦②⑥④⑧		

大	40球	計	3163
振	242	表	50併
箕	242	球	1100
		打	400
		失	110
		盗	0
		回	9
		%	20
		安	40
		%	30
		米	1
		倉	1
		時	52
		間	
		分	



社会人野球の第42回全日本クラブ選手権(毎日新聞社、日本野

球連盟主催)は最終日の4日、埼玉・メットライフドームで準決勝と決勝を行った。決勝は和歌山箕島球友会(和歌山)が大和高田ク(奈良)に延長10回タイプレックの末に逆転サヨナラ勝ちし、2年ぶり4回目の優勝。今秋の日本選手権(京セラドーム大阪)の出

場権を獲得した。表彰選手は次の通り。最高殊勲選手 和田拓也 投手(和歌山箕島球友会) 敢闘賞 山本竜也 投手(大和高田ク) 首位打者 賞 岩永幸大 外野手(同、16打数8安打、打率5割)

▽準決勝
千曲川ク(長野) 0000100000001
大和高田ク(奈良) 10020100000X 4
(千)菊池、本多、佐藤賢一、石渡(大)山本、大谷

和歌山箕島球友会(和歌山) 10001000000012
ゴールドシムク(兼京) 000000000011
(和)寺岡、水田(ゴ)北見、中川涼、八巻

▽決勝(延長回はタイプレック)
大和高田ク 000000000022
和歌山箕島球友会 000000000033

(和歌山箕島球友会)は2年ぶり4回目の優勝